

## 「アート中野土人形絵ロード」で街おこし

### 取り組みに至る背景・事業の目的

江戸時代より人々の生活や風習と深く結びつき、子どもの成長や開運厄除など庶民の切実な願いが託されてきた土人形。その醸し出す素朴な風情から多くの人々に愛され、「ひな市」は北信濃に春を告げるイベントとして広く全国に知れ渡っている。

この中野土人形をモチーフにしたパネル絵を全国から募集し、中野陣屋県庁記念館前に野外アートとして展示することで、周辺一帯に整備された歴史の小径にさらなる彩りと潤いを添え、回遊性の向上と賑わいの創出、商店街における街づくり意識の高揚を目指した。

### 事業内容

中野土人形をモチーフにしたパネル絵を全国から募集し、市内はもとより遠くは北海道まで、合わせて32点の応募があり、これを中野陣屋県庁記念館前に「アート中野土人形絵ロード」として展示した。

平成21年3月1日(日)には5市町(長野、須坂、小布施、中野、山ノ内)を結んだ「ぶらり北信濃ひな巡り」のオープニングを兼ねてお披露目を実施し、500人を超す観客が集まった。



### 事業効果

例年、3月は「ひな市」を控えているせいか比較的閑散としていたが、「絵ロード」の完成により毎日50人を超える観覧者が訪れるなど、歴史の小径に彩りと明るさが戻った。

また、中野商工会議所が定期的に行っている「観光十選巡り」の巡回コースの一つに加えられたほか、同所主催の「まちかど土びな展」も「絵ロード」のお披露目に併せ、商店街71店舗の協力の下、通常より半月以上も早い開催となるなど、地元商店街においても街づくりに対する意識が高まってきている様子が伺える。

さらに、国指定史跡の「高梨館跡公園」や「日本土人形資料館」へのルートとの問い合わせが増えるなど、回遊(観光客の流れ)の大きな拠点となっている。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取り組みなど

歴史の小径に新たな観光ロード「絵ロード」が完成し、回遊の大きな拠点が出来たことにより、今後はさらに地元商店街との企画協力体制を整えることで、歴史、土人形といった芸術文化を持つ潜在的な魅力の掘り起こしと賑わいの創出に力を注いでいく。

また、この「絵ロード」を市街地内各所(信州中野駅からのルート等)に設置し、街全体としての回遊性を高め、市街地に所在する各種施設「まちなか交流の家」「日本土人形資料館」などとともに、土びなの里づくり活動をより強力に推進していく。

#### 【選定のポイント】

地元商店街等との協力や市民が参加できる形を加えて、新たな土びなの里づくりを進めている。

団体名	信州なかの観光協会(中野市)	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	事務局 電話 0269-23-2211	事業費	634,418円
メールアドレス	info@nakanokanko.jp	支援金額	634,000円